

平成30年度事業報告

平成30年度は全国的に自然災害が多い年となり、特に豪雨災害に見舞われました。被災された地域では、社会福祉協議会が行政及び関係機関と連携を図り、災害ボランティアセンターを開設し、被災地の支援ニーズ把握やボランティアの受入れ、調整、マッチング活動を支援する活動が多くみられました。こうした中、新庄市内でも8月に豪雨災害により、床上床下浸水の被害がありましたが、災害規模が小さく、災害ボランティアセンターを設置するまでには至らない状況でした。近隣の戸沢村では被害が大きく、災害ボランティアセンターを設置することになり、県社協を始め、県内市町村の社協職員がセンター運営の支援をし、本会でも延べ13日間の職員派遣を行ないました。

また、全国的にも課題となっている人口減少、高齢社会、核家族化の進行に伴い、本会事業にも少なからず影響が起きているのが現状ですが、本会は地域福祉の中心的な役割と使命を認識しながら各事業を推進してまいりました。

もみの木訪問介護事業では、平成29年度から開始された介護予防・日常生活支援総合事業による介護報酬の単価の見直し、利用者の施設入所、入院等の理由により、介護報酬が年々減額となっております。介護員の労働力も不足している中、職員が一丸となり、高齢者や障がい者が在宅で安心して自立した日常生活を営むことができるよう事業を実施しました。

もみの木介護支援事業所では、関係機関・多職種との連携を図り、利用者の心身の状況や生活環境、利用者・ご家族の希望に沿ったケアプランを作成し、可能な限り住み慣れた地域で在宅生活ができるよう支援いたしました。

放課後児童健全育成事業では、4箇所の学童保育所で事業を運営しておりますが、共働き家庭が増えており、利用する児童が年々増加しています。また、アレルギー体質や服薬等、特別な支援が必要な児童も増えている中、保育士等専門的資格の人材不足という課題はありますが、行政と連携しながら、支援員の積極的な研修参加に取り組み、事業の充実を図りました。

地域包括支援センターでは、高齢者やそのご家族が安心して生活できるよう相談対応を行い、助言や適切なサービス及び関係機関への繋ぎの支援を実施しました。高齢者虐待、ケアマネジャーが抱える困難事例等、より専門的な対応が必要な場合においても適切な支援を実施しました。介護予防においては、利用者が要介護状態になるのを防ぐため、主体的に介護予防に取り組めるよう適切なケアマネジメントを実施しました。また、医療と介護の連携やケアマネジャーとの連携体制づくりのため、自立支援型地域ケア会議を開催し、自立支援型のケアマネジメントの普及、地域支援ネットワークの構築を図りました。認知症施策では、オレンジカフェ（認知症カフェ）や認知症サポーター養成講座の開催を通して、認知症についての正しい知識の普及を図りました。生活支援の体制整備においては、いきいき百歳体操等の通いの場の立ち上げ支援、地域の担い手の育成を図りました。

また、本会の財務状況を明らかにするため、「新庄市社会福祉協議会財政計画」を作成しました。自主財源である社協会費や共同募金配分金収入、収益事業である介護保険収入が減少傾向にある中で、社協事務所や老人福祉センター建物の老朽化による耐震補強や改修等も中長期的に検討していかなければなりません。難しい課題ではありますが、安定した自主財源を確保するため、今後も経営努力を行ないながら行政と協議してまいります。

最後になりましたが、各種事業にご支援ご協力をいただきました関係各位に感謝申し上げ、平成30年度主要事業につきまして、次のとおりご報告いたします。

【法人・地域福祉事業】

1. 役員会等運営事業

(1) 理事会の開催

◇第1回理事会	平成30年 5月25日(金)	出席理事 13名 出席監事 2名
◇第2回理事会	平成30年11月12日(月)	出席理事 14名 出席監事 2名
◇第3回理事会	平成31年 3月19日(火)	出席理事 15名 出席監事 2名

(2) 評議員会の開催

◇第1回評議員会	平成30年 6月12日(火)	出席評議員 20名 出席監事 1名
◇第2回評議員会	平成30年11月30日(金)	出席評議員 23名
◇第3回評議員会	平成31年 3月28日(木)	出席評議員 23名

(3) 監査の開催

◇第1回監査	平成30年 5月14日(月)	出席監事 2名(平成29年度分)
◇第2回監査	平成30年11月21日(水)	出席監事 2名

(4) 委員会の開催

◇評議員選任・解任委員会	平成30年 5月28日(月)	出席委員 5名
◇老人福祉センター運営委員会	平成30年 6月18日(月)	出席委員 10名
◇歳末たすけあい配分委員会	平成30年12月12日(水)	出席委員 8名
◇新庄市たすけあい金庫 新庄市善意銀行運営委員会	平成30年12月12日(水)	出席委員 8名
◇表彰選考委員会	平成31年 2月15日(金)	出席委員 5名

(5) その他

◇市定例監査	平成30年 6月27日(水)	市監査委員
◇会計訪問指導	平成30年 5月 7日(月)	高山税理士
	平成30年 9月18日(火)	高山税理士
	平成31年 1月28日(金)	高山税理士
◇労働基準監督署調査	平成30年10月30日(火)	新庄労働基準監督署
◇県社協ヒアリング (地域福祉事業関連)	平成30年11月13日(火)	県社会福祉協議会

2. 事務局運営事業

関係機関及び団体との連携

◇第68回 山形県・県民福祉大会

平成30年11月20日(火) 天童市市民文化会館

メインテーマ「住民が主体となり 誰もが心豊かに暮らせる 地域福祉の確立」

講演 「いのちのバトンタッチ」 青木新門 氏

① 行政(新庄市)との連携

- ・事業運営に関し、所轄庁としての助言・指導をいただきました。
- ・社会福祉協議会事業の情報の共有に努め、市の広報紙等に掲載協力をいただきました。
- ・社会福祉協議会運営費、老人福祉センター運営費・修繕費への補助をいただきました。

- ・地域包括支援センター運営事業、要介護認定調査、放課後児童健全育成事業（中央・日新・北辰・萩野）、地域活動組織育成支援事業、福祉バス運行管理事業、敬老会支援事業を委託事業として実施しました。
- ・福祉サービス利用援助事業、貸付事業等の制度・サービスの運営における要援護者の支援を連携して行ないました。

②区長協議会との連携

- ・社会福祉協議会の協力員として、常に市民の先頭に立ち地域福祉・高齢福祉事業及び共同募金事業などの普及活動や啓蒙、広報紙の配布、会費・募金の徴収等幅広く協力をいただきました。

③民生委員児童委員協議会との連携

- ・社協の各種事業を進めるうえで、ニーズの把握や情報提供にご協力いただきました。
- ・生活福祉資金貸付事務事業では、低所得者世帯の更生を図るため、指導や意見、対象世帯の見守りを行なっていただきました。
- ・2区の定例会に参加し、愛のひと声運動、歳末たすけあい運動に関する事業説明を行ないました。
- ・歳末たすけあい募金の配分実施では、対象世帯の調査及び配布のご協力をいただきました。
- ・新庄市民生委員児童委員研修会へ参加し、民生委員の見守りに活用できる社協の事業の情報提供を行ないました。

④県社会福祉協議会との連携

- ・生活福祉資金貸付事業・福祉サービス利用援助事業を委託事業として実施しました。
- ・社会福祉関連事業を進める上で指導、意見をいただきました。

⑤関係諸団体との連携

- ・各婦人会、老人クラブ連合会、身体障害者福祉協会、更生保護女性会やその他の関係諸団体と、共同募金活動、ワナゲ大会等、各事業において連携とご協力をいただきました。

（事業効果等）

各機関、団体のご指導・ご協力により、円滑な社協事業の運営が図られた。

新庄市社会福祉協議会財政計画の作成（計画期間：平成30年度～32年度）

本会の事業を推進していく上で、安定した財源の確保が必要になります。財務状況を明らかにし、安定した事業運営に取り組んでまいります。

3. 会 費

会費の納入に理解を求めるとともに、納入の便宜を図るため金融機関（新庄信用金庫・新庄市農協・もがみ中央農協）での振込を促進しました。

また、6月下旬の5日間の期間、市役所内で行う各種会費等の集中受付に同席し、社協窓口を設け、納入の簡便化に努めました。

平成30年度実績額	前年度実績額	前年度比較	対前年比	振込利用件数
7,913,900円	7,936,400円	△22,500円	99.72%	11件

集中受付期間 6月25日～29日

期間中社協会費納付地区数 171町内

(課題等)

会費の納入率が低下傾向にあり、社協事業への理解・協力を求める為、行事開催度に、参加者に対して事業周知を行なうことを継続する。

4. 実習生の受入れ

専門的な知識や実践力の高い人材の育成のため、将来の福祉を担う資格取得を目指す学生等の受入れを行ないました。

(事務局)

【社会福祉相談援助実習】

社会福祉士国家資格の受験資格を取得するための専門知識・援助技術を現場での実践において主体的に学ぶものです。

東北福祉大学学生 1 名	受入期間	平成 30 年 5 月 28 日 (月) ～ 6 月 28 日 (木)
--------------	------	--

(訪問介護事業所)

【訪問介護実習】

東北文教短期大学学生 1 名	受入期間	平成 30 年 8 月 7 日 (木) ～ 8 月 8 日 (水)
----------------	------	--------------------------------------

東北文教短期大学学生 1 名	受入期間	平成 30 年 8 月 9 日 (木) ～ 8 月 10 日 (金)
----------------	------	---------------------------------------

(介護支援事業所)

【介護支援専門員実務研修実習】

実習生 1 名	受入期間	平成 31 年 1 月 25 日 (金) 1 月 28 日 (月) 2 月 1 日 (金) 午後のみ 2 月 4 日 (月) 午前のみ
---------	------	--

(地域包括支援センター)

【社会福祉相談援助実習】

東北福祉大学学生 1 名	受入期間	平成 30 年 5 月 28 日 (月) ～ 6 月 28 日 (木)
--------------	------	--

【認定看護管理者教育課程セカンドレベル施設実習】

実習生 1 名	平成 30 年 10 月 26 日 (金)
---------	-----------------------

(事業効果等)

実習の受け入れを通して、専門的人材の育成が行なわれたとともに、業務を振り返り社協事業の専門性を再確認する良い機会となった。

5. 職員研修

既に行なっている個々の専門職としての知識・技術を高めるための継続的な研修の他に、危機管理対策として職員研修を行ないました。

交通安全講習会

夕暮れ時の走行の注意点や最近の交通事故の原因等を新庄警察署の職員を講師に迎え、「交通安全講習会」を開きました。

日 時：平成30年11月26日（月）13時15分～14時15分

場 所：社協3階会議室

参加人数：22名

6. 各種表彰該当者の推薦

第68回山形県・県民福祉大会

社会福祉の分野で顕著な御功績があった方に対し、その功を称え山形県及び山形県社会福祉協議会から表彰状が贈られました。

平成30年11月20日（火） 天童市民文化会館

《県知事表彰》

（敬称略・順不同）

民生委員・児童委員功労者

三浦 美栄子

共同募金運動奉仕者

奥山 仁兵衛

佐藤 茂安

中山 幸子

福井 栄子

社会福祉事業従事者

阿部 綾子

（友愛園）

佐藤 美紀

（双葉荘）

中島 幸子

（双葉荘）

《山形県・県民福祉大会会長表彰》

民生委員・児童委員功労者

仙台 栄治

一般社会福祉事業関係功労者

中島 美果

（双葉荘）

松田 美佐子

（身体障害者福祉協会）

中山 幸子

（更生保護女性会）

佐々木千代子

（更生保護女性会）

大黒 千恵子

（更生保護女性会）

奥山 嘉代子

（更生保護女性会）

木村 博子

（更生保護女性会）

7. 福祉教育の推進

高齢者や児童との関わりを通して、青少年期に支え合い意識の向上を学ぶことを目的としています。

【除雪体験】

学 校 名	実 施 日	生 徒	教 師
八向中学校	平成31年1月28日（月）	21名	6名
新庄中学校	平成31年2月 8日（金）	10名	1名

山形県立農林大学校	平成31年2月20日（水）	10名	2名
-----------	---------------	-----	----

【施設体験】

①山形県教育委員会発行の「ＹＹボランティアビューロー」を通じて、夏休み・冬休み期間等のボランティア体験を募集し、活動につなげました。

（日新放課後児童クラブ）

実施日 平成30年8月2日（木）

神室産業高校生徒1名

②明倫中学校からのボランティア体験の相談を受け、施設と連携し、活動場所をコーディネートしましたが、大雨の影響で中止となりました。

（事業効果等）

生徒が、高齢者や児童等、支援が必要な方に対して、地域で支えあう大切さを学んだ。学校側からの協力依頼が増えたことから、今後の推進体制が構築された。

8. 福祉サービス利用援助事業（山形県社会福祉協議会委託事業）

判断能力の低下により、福祉サービス利用の手続きや金銭管理等が困難な方につき、手続き・支払等の代行支援を行ないました。

最上管内利用件数 38件（前年度44件）内、新規契約締結件数 10件、解約件数 16件
平成30年度相談件数 462件（前年度391件）

〈最上管内利用件数内訳〉

	新庄	金山	鮭川	大蔵
件数	35	2	1	0

（事業効果等）

グループホーム等の入所者や精神・知的障がい者の利用者が増加している。福祉行政、地域包括支援センター、障害者相談支援センター、福祉関係事業所等との連携が密に図られた効果的な支援が行なわれた。

9. 生活福祉資金貸付事業（山形県社会福祉協議会委託事業）

低所得者世帯等の経済的自立と教育支援を図るため、貸付を実施しました。滞納者に対しては、償還指導、相談援助を行ないました。

〈平成30年度貸付内訳〉

資金種類		件数	貸付金額
総合支援資金	生活支援費	0件	0円
	一時生活再建費	0件	0円
福祉資金	福祉費	4件	2,876,000円
	緊急小口資金	2件	200,000円
教育支援資金		1件	2,660,000円
合計		7件	5,736,000円

(事業効果等)

例年に比べ相談及び貸付件数は減少した。福祉行政・生活自立支援センター・民生児童委員など関係機関と連携を密にして、包括的に相談支援することができた。

10. 地域活動組織育成支援事業（地域ふれあいサロン事業 市委託事業）

閉じこもりや、介護予防を目的として地域サロンの立ち上げや活動の助言等の支援を行いました。

◇サロン活動の実施状況

	開催地区	実施回数(回)	参加人数(名)
1	仁田山	12	96
2	下金沢	9	129
3	金沢新町	24	226
4	柏木山	10	87
5	泉田	12	161
6	本合海	21	171
7	老人福祉センター	13	130
8	あたご	7	84
9	円満寺	10	61
10	本宮一区	19	230
11	桜通り東	10	127
12	野際	12	100
13	八向	13	158
14	西町	11	56
15	千門町	24	276
16	東山	10	117
17	松枝	11	128
18	上西山	12	140
19	下仲町	9	84
20	若葉中央	10	62
21	上仲町	10	56
22	吉袋	12	247
23	鳥越	14	163
24	栄町	23	326
25	滝の倉	12	98
26	金沢・松本・本合海	19	233
27	梨の木	17	138
28	若葉東	10	75
	合計	376	3,959

(事業効果等)

今年度は5地区のサロンが立ち上がり、代表者と立ち上げに向けての協議や活動についての必要な支援を行ないました。また、地域包括支援センターの生活支援コーディネーターと「いきいき百歳体操」を実施している地域にサロンを活用できる取り組みを行いました。

◇地域ふれあいサロン交流会

サロン活動を活性化するため、他地区サロンとの交流や情報交換の場として、「地域ふれあいサロン交流会」を実施しました。

日 時：平成30年11月16日（金）9時30分～11時45分

場 所：新庄市民プラザ 小ホール

参加人数：48名（15サロン）

内 容：1.脳力アップ体操教室

「認知症予防の話、脳トレ、ストレッチ等でリフレッシュしましょう」

2.情報交換会

講 師：健康運動指導士 古瀬 崇 氏 （㈱スポーツクラブ天童）

11. 福祉バス管理事業（市委託事業）

市の委託を受け、福祉バスの運行管理を行ないました。

利 用 団 体	件数	社 協 事 業	件数
老 人 ク ラ ブ	12	地域活動組織育成支援事業 (地域ふれあいサロン事業)	17
障 が い 者 団 体 等	16		
民 生 委 員 児 童 委 員	13		
福 祉 関 係 団 体	10		
高 齢 者 団 体 (ス ポー ツ)	2		
児 童 関 係 団 体	7		
行 政	12		
そ の 他	8		
合 計	80	合 計	17

(事業効果等)

多くの福祉関係団体が安全に利用できるように、新庄市福祉バス運営要綱に基づき実施した。

12. 敬老会支援事業（市委託事業）

市の委託を受け、敬老会開催地区について開催費用の一部を助成しました。

開催地区 14地区 参加者 747人

補助金額 589,038円

(事業効果等) 助成対象経費を整理し助成することにより、敬老会の内容の充実が図られた。

1 3. 新庄市たすけあい金庫事業

平成22年度以降、貸付件数がないことから、今年度で事業を廃止しました。通帳の残金は、同じ貸付事業である善意銀行に繰入し活用します。

1 4. 新庄市善意銀行事業

30,000円を限度に生活困窮者世帯に貸付を行ないました。

			平成30年度	前年度	対前年比(%)
現年度	払出	件数	1件	0件	0
		金額	20,000円	0円	0
	貸付	件数	13件	21件	61.90
		金額	265,000円	532,000円	49.81
	未償還	件数	4件	7件	57.14
		金額	55,000円	149,000円	36.91
全体	未償還	件数	20件	25件	80.00
		金額	372,000円	452,500円	82.20

(事業効果等)

一時的な支出や生活費が不足し、急を要するケースにフードバンク等を活用し、迅速かつ柔軟に対応した。滞納者については、電話や訪問による償還指導を行った。生活困窮者の自立に向けた相談が多いため、生活自立支援センターもがみと連携して相談対応を行なった。

〈参考〉貸付年度別未償還件数

年度	H20	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	合計
件数	1	2	2	1	1	6	3	4	20

◇フードバンクの提供

30年度は生活自立支援センター、行政等の関係機関と連携し、新庄市内の15世帯に食品を提供いたしました。

1 5. 放課後児童健全育成事業（市委託事業）

市の委託を受け、市内4ヶ所の学童保育所を運営しました。

中央学童保育所（堀端町） 日新放課後児童クラブ（松本）

北辰学童保育所（北辰小学校内） 萩野放課後児童クラブ（萩野学園内）

施設	対象学区	職員数	年間開所 日数	定員	利用児童数（名）			
					年間利用者数	年度当初	年度末	1日あたり 利用人数
中央	新庄・沼田	4名	285日	60名	11,749	59	56	41
日新	日新	7名	286日	80名	15,585	79	68	54

北辰	北 辰	2 名	2 8 7 日	2 5 名	4, 4 0 9	2 4	1 6	1 5
萩野	萩 野	3 名	2 8 5 日	4 0 名	6, 9 5 7	4 0	3 7	2 4

(事業効果等)

子育て推進課より講師を迎え、応急手当研修会を開催し、打撲や擦り傷などの対処法を学びました。また、県内、市内の研修に積極的に参加し、職員のスキルアップを図りました。

(課題等)

中央学童保育所と日新放課後児童クラブの建物が老朽化しているため、修繕が必要な場合は、子育て推進課に報告し、子ども達が安全に過ごせる環境整備に努めました。

16. 連絡調整育成指導事業

下記の団体に補助金を交付しました。

団 体 名	内 容 等	金 額 (円)
新庄市戦没者遺族会	戦没者遺族者活動事業への支援 (市補助金 218,000 円)	2 1 8, 0 0 0
新庄市民生委員児童委員協議会	調査協力費の交付	5 6, 0 0 0
新庄市更生保護女性会	青少年非行防止等事業への助成	4 3, 0 0 0

共同募金配分(地域福祉活動車両整備事業 共同募金 70 周年記念事業)により、車輛を購入しました。

団 体 名	内 容 等	金 額 (円)
新庄市社会福祉協議会	車 輛 購 入 費	1, 0 0 0, 0 0 0



がついている事業は共同募金の配分金で実施している事業です。

17. 企画・広報・情報事業 (共同募金配分金事業)

(1) 広報紙「社協だより」の発行

◇第36号	平成30年 7月発行	全戸配布
◇第37号	平成30年11月発行	全戸配布
◇第38号	平成31年 3月発行	全戸配布

(事業効果等)

社会福祉協議会の事業内容や福祉情報、地域福祉活動を幅広く掲載し、市民の地域福祉活動への関心をより高めるとともに、各種情報の提供を行なうことができた。

(2) ホームページの運営

◇ホームページの更新

(事業効果等)

社会福祉協議会の事業や活動について、市民の皆様によくの情報を提供し、広報の啓発を図ることができた。

18. 助成金事業 (共同募金配分金事業)

下記の団体との協働を図り、その活動を援助するため負担金等の助成をしました。

事業実施福祉団体	内 容 等	金 額 (円)
----------	-------	---------

新庄市身体障害者福祉協会	障がい者スポーツ振興への助成	28,000
新庄市手をつなぐ育成会	レクリエーション大会参加等事業への支援	36,000
社会を明るくする運動推進委員会	少年犯罪・非行の防止、更生援助への支援	28,000

(事業効果等) 各団体においての事業の推進を図った。

19. 社会福祉協議会表彰等事業 (共同募金配分金事業)

- (1) 社会福祉協議会表彰 平成31年3月7日(木) 社会福祉協議会3階会議室
社会福祉事業に多大な貢献のあった個人・団体に対し、その功を称え表彰を行ないました。

◇ 会長表彰受賞者 8名

《民生委員児童委員功労者》

星川 征和 高橋 保廣 阿部たきの 中山 幸子 阿部 強 茂野 宏

《一般社会福祉事業関係功労者》

林 真由美 (新寿会職員)

宮城 節子 (身体障害者福祉協会役員)

◇ 会長感謝状 4団体

新庄歌謡振興会

新庄さくら歌謡愛好会

新庄べにばな歌謡サークル

新庄カラオケ振興会

(敬称略・順不同)

(事業効果等) 顕彰により更なる研鑽・貢献が期待できる。

- (2) 敬老祝い品の贈呈

長寿の方々に会長の祝詞を添え、祝い品の贈呈を行いました。

白寿対象者 17名 (男 5名 女 12名)

米寿対象者 270名 (男 84名 女 186名)

(事業効果等) 祝い品の贈呈により、長寿の方への尊敬・感謝の想いを示した。

20. 心配ごと相談事業 (共同募金配分金事業)

◇ 弁護士相談 新庄ひまわり基金法律事務所 千葉剛志弁護士

毎月第3週木曜日 (午後1時30分～午後4時)

◇ 一般相談 (社協職員対応) 平日 (午前8時30分～午後5時15分)

相談内容	弁護士相談	相談内容	一般相談
借金・多重債務	9件	生 計	31件
離 婚	11件	高齢者・介護	1件
遺言・相続	9件	障 が い	4件
近隣トラブル	2件	除 雪	3件
財産・不動産	8件	ボランティア	3件
高齢・障がい	2件	そ の 他	5件
労 働	2件		
消 費 者	0件		

苦 情	0 件		
そ の 他	5 件		
合 計	4 8 件	合 計	4 7 件

(事業効果等)

弁護士相談は、法的な対応を要する問題の解決に向けての方向性を示し、適切なアドバイスを行なっていただいた。一般相談は、生活困窮や生活設計に関する相談が多く、福祉行政、生活自立支援センター・民生児童委員・山形県社協などの関係機関と連携して、相談者の自立に向けて迅速かつ包括的な支援を行なうことができた。

2 1. 援護事業（共同募金配分金事業）

災害被災者・交通遺児への支援

・市環境課のご協力をいただき、小学生から高校生までの交通遺児に激励金を支給しました。

	対 象 世 帯	金 額 (円)
災 害 見 舞 金	0	0
交通遺児激励金	1	1 5, 0 0 0

(事業効果等)

交通遺児激励金については、1世帯と減少傾向にあるが、激励の意を表することができた。災害見舞金の支給はありませんでした。

2 2. 児童遊び場整備事業（共同募金配分金事業）

地域で管理している児童遊園の遊具の修繕費用や保全に必要な原材料の給付を行ないました。

	申請地区数	総事業費 (円)	地元負担金 (円)	交付金額 (円)
遊具の修繕	1 地区	5 3, 4 6 0	5, 3 4 6	4 8, 1 1 4
		往還		
原材料支給等	1 9 地区	3 0 7, 0 6 7	—	3 0 7, 0 6 7
		升形下二・泉ヶ丘・赤坂・野中・升形五・清水・中川原・ 市野々・升形上二・横根山・角沢・昭和三・往還・本宮一・ 本宮二・萩野・福田・二枚橋・松本		

(事業効果等)

区長と連携し、子ども達が安全に遊べるよう地域の遊び場の保全に協力できた。

2 3. 高齢者健康対策振興事業（共同募金配分金事業）

第27回会長杯ワナゲ大会

平成30年7月4日（水）

新庄市体育館

参加者総数 249名 : 参加チーム数 40チーム

	団 体 の 部	個 人 の 部
--	---------	---------

		男 子	女 子
優 勝	めぶきクラブ	山 科 浩 (上茶屋町茶遊会A)	大 山 悦 子 (めぶきクラブ)
準優勝	上茶屋町茶遊会A	石 山 宣 助 (末広町寿会B)	高 橋 勝 子 (中道町建友会)
第3位	末広町寿会B	丹 勁 (めぶきクラブ)	佐 藤 賀志子 (新松会A)

(敬称略)

(事業効果等)

高齢者の健康増進、いきがい・仲間づくりに貢献し、地域の繋がりや輪を広げることができた。市健康課の健康講話、展示ブースによる健康推進、新庄警察署の特殊詐欺防止の取組みと連携し、山形新聞などのメディアを通じてワナゲ大会と新庄市社会福祉協議会を広く周知することができ、関係機関との連携が深まった。

24. 愛のひと声運動事業（共同募金配分金事業）

一人暮らし高齢者などに乳酸飲料を配達し、ひと声かけることで安否確認を行ないました。

配達日 毎週月・水・金曜日

利用者 33名 延回数 4,118回 (平成31年3月31日現在)

(事業効果等)

外出の機会や地域との交流が少ない一人暮らし高齢者の安否確認として、大いに機能した。ヤクルト配達員やケアマネジャー等と連携し、見守りを行なうことができた。

25. 高齢者世帯等除雪支援事業（共同募金配分金事業）

- ・高齢者等の除雪に対する相談に応じ、適切なサービスに結びました。
- ・企業、学校等と連携を図りながら、高齢者世帯の自宅の除雪を実施しました。

対象世帯 10世帯（実施回数 11回）参加者延べ82名

協力企業・学校 ㈱柿崎工務所、郵便局長会最上北部会、山形県立農林大学校
新庄中学校、東北電力㈱新庄営業所、八向中学校

(順不同・敬称略)

外 個人ボランティア1名

(事業効果等)

他から作業的・金銭的支援が受けられない高齢者世帯等の除雪に対する不安が解消されました。今年度は例年と比べ、積雪量が少なく活動回数は減少したが、NHKの取材「ニッポンぶらり鉄道旅」で除雪ボランティア活動を取り上げていただく機会があり、メディアを通して活動を周知することができました。

26. ボランティア活動推進事業（共同募金配分金事業）

- ・ボランティアセンターとして、情報提供や活動場所との調整を行ないました。
- ・ボランティア活動保険の加入業務を行ない、ボランティア団体の把握に努めました。
- ・ボランティアに関する研修会を実施し、ボランティアの育成を行ないました。

◇平成30年8月5日の豪雨災害により開設された、「戸沢村災害ボランティアセンター」

運営に職員を派遣しました。

日 時：平成30年8月10日（金）～12日（日） 職員2名派遣
平成30年8月14日（火）～17日（金） 職員1名派遣
平成30年8月20日（月）～24日（金） 職員1名派遣
平成30年8月27日（月） 職員1名派遣
平成30年9月 2日（日） 職員5名がボランティアとして参加
場 所：戸沢村健康センター（災害ボランティアセンター設置場所）

※ 「広報とざわ」 参照

ボランティアの記録

災害ボランティアセンター（8/11～28） 42団体875人が活動

社協ボランティアセンター（9/2～3） 5団体48人が活動

（1）傾聴ボランティア講座

開催日時：平成31年3月12日（火） 13時30分～15時30分

場 所：わくわく新庄研修室

参加人数：28名

講 義：「相手を笑顔にする傾聴技術」

講 師：PresentTime 代表 塩野貴美 氏

・話を聴いてほしい方の話し相手となり、心のケアや孤独感の軽減を支援する傾聴ボランティアの養成を目的に、傾聴技術の向上を図りました。今回は心のカードを使い、日頃から思っている気持ちを引き出す方法を学び、有意義な講座となりました。

（2）最北地域ボランティアの輪連絡会議

30年度の当番社協として、研修会を開催しました。

開催日時：平成30年11月7日（水） 10時～14時20分

場 所：わくわく新庄

参加人数：最北地域のボランティア及び社協職員 計35名

（東根市・村山市・大石田町・最上町・戸沢村・真室川町・尾花沢市・新庄市）

内 容

① 「災害ボランティアの基礎について学ぼう」

講 師：山形県社会福祉協議会 地域福祉主査 鈴木利宜 氏

② 「戸沢村豪雨被害における活動報告」

講 師：戸沢村社会福祉協議会 事務局長 八楯真生 氏

③ 情報交換「災害時の対応について考えよう！」

進 行：山形県社会福祉協議会 地域福祉主査 鈴木利宜 氏

④ 「いきいき体操」

講 師：特別養護老人ホームかつろくの里

作業療法士 奥山清彦 氏

・最北地域のボランティア“同志”の交流を図り、災害ボランティアの基礎について、災害ボランティアセンターの機能・役割について学びました。

（3）ボランティア団体、個人、ボランティアとの協働

・理美容ボランティア「チョキボラ」の利用支援・ボランティアとの連携

平成31年3月31日現在 利用者数27名

- ・傾聴ボランティア：新庄薬師園・エーデルワイス・ケアホームカナンのご協力により、話をする機会の少ない方を対象に傾聴を実施しました。

実施場所(回数)：新庄薬師園(7回)、エーデルワイス(8回)、ケアホームカナン(8回)、個人宅(4回)

ボランティア17名

- ・大工ボランティア：新庄建築大工組合のご協力により、低所得高齢者3世帯の老朽化した家屋の軽微な修繕を実施しました。

27. 元気・ハツラツ予防体操事業（共同募金 地域福祉・在宅福祉事業配分）

前年度に引き続き老人福祉センターと社会福祉協議会の2階を実施場所として事業を行いました。高齢者の方々の生きがいを見つけ、いつまでも自分らしく健康で生活ができるように、運動機能の向上を目的として行なう予防体操です。

開催日時・場所：①毎月第1金曜日 13時～14時 社会福祉協議会2階

②毎月第3金曜日 13時～14時 老人福祉センター第1会議室

参加人数：511名

実施回数：21回

講師：公益社団法人山形県柔道整復師会

植木 俊和 氏（植木整骨院）

早坂 耐希 氏（早坂整骨院）

加藤 修 氏（かとう整骨院）

（事業効果等）

継続的に参加することにより、顔見知りが増え、健康増進のほか生きがいづくりにも繋げることができた。

28. シニアタブレット教室（共同募金 地域福祉・在宅福祉事業配分）

シニア世代が趣味活動やコミュニケーションツールの活用を通して生きがいを創出し、生活に役立つ情報を得られるようになることを目的にシニアタブレット教室を開催しました。

日時：平成30年9月5、12、19、26日(全4回)

9時30分～11時30分

受講延数：38名

【老人福祉センター運営事業】

1. 老人福祉センター施設管理事業

高齢者のふれあい、生きがいづくりの場として、より多くの方々にご利用いただけるよう運営に努めました。

 第11回老人福祉センターまつり（ふれあいセンター）

実施日：平成30年10月19日（金）・20日（土）の2日間

入場者数：300名

◇避難警報や避難口等の確認

避難警報ベルや避難口等の点検を実施し、利用者の安全確保に努めました。

(1) 老人福祉センター利用状況

		平成30年度	前年度	対前年比(%)
開館日数		299日	301日	99.33
利用者	延べ人数	13,268人	13,250人	100.14
	団体数	1,419団体	1,399団体	101.43
	1日の平均利用者数	44.4人	44.0人	100.91

(2) 文化教室別利用状況（社協主催事業 共同募金配分事業）

文化教室種類	平成30年度(人)	前年度(人)	対前年比(%)
生け花教室	173	129	134.11
絵手紙教室	92	94	97.87
合計	265	223	118.83

生け花教室は定員数を超えて実施しています。

(3) 季節の教室

昨年度に引き続き、四季折々の季節感を取り入れた講座を行ないました。

① 笹まきづくり講座

現在も作り継がれている笹まき（新庄巻）づくりを行ない、参加者の方々に大変喜ばれました。

実施日：平成30年6月26日（火）13時～15時30分

参加者：16名

② 陶芸講座

新庄東山焼の作品を、夏休み中のお孫さんと一緒に作る教室を実施しました。

実施日：平成30年7月27日（金）10時～12時

参加者：20名（大人15名、子供5名）

③ しめ飾り講座

手づくりのしめ飾りで新年を迎えられると喜ばれました。

実施日：平成30年12月19日（水）10時30分～11時30分

参加者：14名

(4) カラオケルーム利用状況

定期的に利用者の皆様に最新の曲が提供できる環境で、利用者の皆様に喜んでいただいております。

	平成30年度	前年度	対前年比(%)
--	--------	-----	---------

利用件数	348 件	351 件	99.15
利用人数	2,265 人	2,380 人	95.17

2. 老人福祉センター施設整備事業

1 階女子トイレ洋風便器改修修繕 496,800 円 (日本衛生工事(株)新庄営業所)

(事業効果等)

老人福祉センターの安全性及び利便性を考慮し、修繕を行なった。

洋風便器になり、臭いや汚れが無くなり、清潔に使用することができました。

【共同募金事業】

山形県共同募金会新庄市共同募金委員会と連携し、区長をはじめ多くの市民・団体等のご協力を得て募金活動を推進しました。

1. 赤い羽根共同募金

〈募金内訳〉

	平成30年度 (円)	前年度 (円)	対前年比 (%)
戸別募金 (町内)	3,932,400	4,013,500	97.98
企業募金 (会社・商店545、個人4)	1,888,896	1,891,527	99.86
街頭募金 (12団体)	158,968	163,448	97.26
学校募金 (市内13校)	143,627	128,642	111.65
職場募金 (15事業所)	63,091	112,142	56.26
篤志募金 (市民有志等)	130,330	159,523	81.70
合 計	6,317,312	6,468,782	97.66

※企業募金にご協力いただきました会社・商店については、平成31年3月発行の「社協だより」第38号に掲載しております。

〈配分内容〉

配 分 先	すぎのこハウス、ライムハウス、はぐくみキッズ放課後クラブ、新庄市社会福祉協議会
配分事業	老人福祉センター文化教室、愛のひと声運動事業、高齢者世帯除雪支援事業、助成金事業、児童遊び場整備事業、社会福祉協議会会長表彰、白寿・米寿祝い品贈呈、心配ごと相談事業、援護事業、ボランティア活動推進事業、ワナゲ大会の開催、広報紙の発行、ホームページの運営、元気ハツラツ予防体操、シニアタブレット教室事業等

(事業効果等) 募金の配分金を福祉施設の整備や地域福祉事業に活用し、地域への還元を図った。

〈参考〉

街頭募金協力団体	日新学区婦人会、沼田学区婦人会、新庄市身体障害者福祉協会、新庄市更生保護女性会、山形県社会福祉士会最上支部、新庄市交通安全母の会、新庄中学校、明倫中学校、なかよし放課後児童クラブ、やよい歌謡愛好会、サロンウォーキング、すぎのこハウス
街頭募金活動場所 活動場所提供協力	ヨークベニマル新庄店、ヨークベニマル新庄市下田店、ヤマザワ新庄店、ヤマザワ新庄宮内店、マックスバリュ新庄店、ビッグフレック新庄店、郷野目ストア中央店、郷野目ストア桜町店、ゆめりあ

学校募金協力校	新庄小学校、沼田小学校、日新小学校、北辰小学校、升形小学校、本合海小学校、萩野学園、新庄中学校、明倫中学校、新庄北高等学校、新庄南高等学校、新庄神室産業高等学校、新庄東高等学校
職場募金 (募金協力)	新庄市役所、最上広域市町村圏事務組合、最上地区広域連合、新庄市体育協会、シルバー人材センター
職場募金 (募金箱設置協力)	新庄市役所市民相談室、もがみ物産館、よつば調剤薬局、産直まゆの郷、マックスバリュ新庄店、セブンイレブン新庄新町店、新庄市身体障害者福祉協会、ひと休み・いっぷく、新庄市老人福祉センター、新庄市社会福祉協議会
篤志募金	石山宣助、門脇茂、小関俊也、鈴木幹男、菅原富喜、荒川力、サロンウォーキング、ワナゲ大会会場、外匿名5名

(順不同・敬称略)

2. 歳末たすけあい募金

(1) 募金活動

〈募金内訳〉

	平成30年度(円)	前年度(円)	対前年比(%)
戸別募金(町内)	1,964,100	2,011,100	97.66
篤志募金(市民有志等)	15,446	13,295	116.18
合 計	1,979,546	2,024,395	97.78

篤志募金協力： 大手幼稚園 (敬称略)

(2) 歳末たすけあい運動

共同募金運動の一環として、市民の皆様からお預かりした歳末たすけあい募金について、新たな年を迎える時期に、支援を必要とする人達が安心して暮らせるよう配分委員会を開催し、効果的に配分しました。

〈配分内訳〉

世 帯 区 分	対象世帯数(世帯)	配分金額(円)
準生活保護世帯	5	75,000
寝たきり高齢者介護世帯	1	15,000
母子・父子世帯	19	285,000
一人暮らし高齢者世帯	47	705,000
高齢者夫婦世帯	2	30,000
障がい者世帯	4	60,000
入院・療養者世帯	1	15,000
その他困窮世帯	3	45,000
合 計	82	1,230,000

・配分額 現金15,000円×82世帯＝1,230,000円

白米：600Kg (60袋)

・地域福祉活動費として690,546円 新庄市共同募金委員会事務費として59,000円

(事業効果等)

配分金は民生委員児童委員の協力を得て、効率的に調査・配分することができた。白米は、

谷地小屋の故太田進氏のご遺族である太田義次氏より寄贈していただいた。

【介護等支援事業】

1. 介護支援事業（もみの木介護支援事業所）

介護支援専門員 5名

利用者や家族の相談に応じ、医療機関や他事業所との連携を図りながら、効果的なケアプランの作成と利用者の利便性向上に努めました。

		平成30年度	前年度	対前年比 (%)
要介護 （要介護1～2 ※14,530円 要介護3～5 ※17,680円）	件数	1,674件	1,634件	102.45
	収入	26,083,610円	25,582,380円	101.96
要支援・事業対象 〔3,870円〕	件数	270件	338件	79.88
	収入	1,271,250円	1,451,520円	87.58
要介護 認定調査	件数	135件	137件	98.54
	収入	430,920円	440,640円	97.79
合 計	件数	2,079件	2,109件	98.58
	収入	27,785,780円	27,474,540円	101.13

※ 特定事業所加算 月4,000円込み

（課題等）

平成30年度は居宅介護支援事業所の本来の役割である要介護者の支援と件数獲得に向けて積極的に努めました。結果、要支援者や事業対象者の支援件数は減少しましたが、1件当たりのサービス利用料金が高い要介護者の支援件数が前年と比較し40件増えたことで、全体として収入額が増加しました。新年度も特定事業所として機能充実に努め、要介護者の利用者の確保に努めていきます。引き続き、様々な生活課題を抱える困難ケースの積極的な対応を行ない、安心して在宅介護ができるように支援していきます。

2. 訪問介護事業（もみの木訪問介護事業所）

介護福祉士 8名

ホームヘルパー2級 14名

（平成31年3月31日現在）

利用者の状況を把握し、利用者の必要な支援は何なのかを見極め、関係機関との連携を図りながら支援に努めました。

		平成30年度	前年度	対前年比 (%)
訪問介護 事業	件数	775件	939件	82.53
	収入	40,227,102円	46,028,618円	87.40
障害者自立 支援事業	件数	92件	116件	79.31
	収入	8,302,450円	7,559,330円	109.83
ひまわり介護 サービス事業	件数	71件	80件	88.75

福祉有償運送 含む	収入	301,250円	483,715円	62.28
合 計	件数	938件	1,135件	82.64
	収入	48,830,802円	54,071,663円	90.03

(課題等)

- ・平成30年度は、障がい訪問介護の収入が増額となりましたが、利用者の体調不良や家族の都合による入所、入院等の理由で全体として件数が減少となりました。
- ・研修や月例会を充実させて介護員の資質向上に努めます。
- ・全国的に介護職は離職率が高く人材確保が難しい状況ですが、当会においても人材確保が課題となっております。人材を確保するため、ハローワーク・山形県福祉人材センター・社協広報紙を通じて、介護職員の募集を継続します。

【地域包括支援センター運営事業】

1. 地域包括支援センター事業

主任介護支援専門員 2名 ・ 保健師 2名
 社会福祉士 2名 ・ 認知症地域支援推進員 1名
 生活支援コーディネーター 1名 ・ 介護支援専門員 1名
 事務補助員 1名

		平成30年度	前年度	対前年比(%)
相談事業	総合相談	8,339件	7,574件	110.10
	内介護相談	2,864件	3,700件	77.41

①認知症サポーター養成講座

認知症について正しく理解し、認知症の人や家族に対して温かい目で見守る認知症サポーターを養成しました。

場 所：新庄市社会福祉協議会(3回)、新庄市図書館(1回)、
 新庄コアカレッジ(2回)、きらやか銀行(1回)

開催回数：7回(新庄市社会福祉協議会4回、やすらぎトウメキ1回)

サポーター養成人数：91名

②オレンジカフェ(認知症カフェ)

気軽な雰囲気の中で認知症について学んだり、認知症を話題に交流できる場所であるオレンジカフェを開催しました。

場 所：ひと休み いっぷく

開催回数：12回

参加人数：266名

③いきいき百歳体操・かみかみ百歳体操

高齢者の社会参加と健康寿命延伸を目的として、筋力運動と口腔体操が実施できる週1回以上の通いの場の立ち上げを支援しました。(30年度はNo.5～9までの5箇所新規)

No.	開催場所	開催日(曜日)	開催回数(回)	参加延べ人数(名)
1	老人福祉センター	毎週 月・木	100	1,590

2	新庄市体育館	毎週 月・木	9 1	8 7 9
3	千門町公民館	毎週 火	4 6	5 2 0
4	上茶屋町公民館	毎週 水	5 2	6 4 5
5	鳥越公民館	毎週 火	2 7	2 8 0
6	グループホーム大手町	毎週 水	3 6	(施設利用者含む) 3 0 2
7	鉄砲町公民館	毎週 木	2 1	2 6 3
8	小泉公民館	毎週 火	3 8	3 4 2
9	栄町公民館	毎週 金	2 1	2 5 7
計			4 3 2	5, 0 7 8

④「地域活動きっかけ講座」修了者向けフォローアップ研修会

前年開催した「地域きっかけ講座」受講修了者を対象とした情報交換会を開催し、講座の
効果検証と修了者のフォローアップを行なった。

事前のアンケート調査(16名中14名より回答)の結果、地域ふれあいサロン立ち上げやボ
ランティア活動等のあらたな地域活動が過半数で確認できた。

日 時：平成30年6月19日(火)

会 場：新庄市社協3階会議室

参加人数：6名

⑤自立支援型新庄市地域ケア会議の開催

多くの専門職が協働し、個別ケースの課題や支援内容を検討し、高齢者の課題解決を支援し
ました。また、外部助言者からの専門的な助言を受け、ケアマネジャーの自立支援につながる
ケアマネジメントの実践力向上を図りました。

開 催 日 程：毎月第3水曜日

検 討 ケ ー ス：29ケース

参加メンバー：新庄市、地域包括支援センター、社会福祉協議会事務局、居宅介護支援事業所、
サービス提供事業所、外部助言者

(事業効果等)

地域包括支援センターの三職種(社会福祉士、保健師、主任介護支援専門員)が各専門性を
活かし、適切な相談対応ができた。自立支援型地域ケア会議を毎月開催し、ケアマネジャーの
自立支援の理念の再確認とケアマネジメント力の向上が図られた。

また、介護支援専門員資質向上連絡会を毎月開催し、研修会や情報共有等を通して、ケアマ
ネジャーの資質向上、顔の見える関係づくりが図られた。認知症地域支援推進事業では、認知
症の方やその家族への支援を実施し、医療機関との連携が図られました。オレンジカフェの参
加者も増加した。生活支援コーディネーター事業では、地域資源開発や多様な受け皿確保のた
めの基盤整備を推進しており、いきいき百歳体操の開催地域が増加した。

2. 介護予防支援事業(もみの木介護予防支援事業所)

介護予防ケアマネジメント	平成30年度	前 年 度	対前年比(%)
総 件 数	4,517件	4,515件	100.04
内センター作成分	1,701件	1,618件	105.13

委 託 件 数	2, 8 1 6 件	2, 8 9 7 件	9 7. 2
収 入 金 額	1 9, 8 9 5, 8 0 0 円	2 0, 0 7 2, 6 0 0 円	9 9. 1 2
委託費支出金額	1 1, 1 6 9, 8 1 0 円	1 1, 6 0 4, 6 7 0 円	9 6. 2 5

(事業効果等)

新庄市における高齢化率の上昇に伴い、介護保険サービスの利用者が増加する傾向にありますが、要介護状態にならないよう、状態が悪化しないよう適切な介護予防のマネジメントを実施することができた。また、介護予防プランの委託については、利用者の自立支援に資するケアプランが適正に作成されるよう各事業所へプラン作成の指導を行なうことができた。